

「トロールの森 2013ーまちと森をつなぐかたち」主 旨

「トロールの森」について

「トロールの森」とは、難解と思われがちな現代美術を身近な環境の中で、たくさんの方々に見ていただくという主旨のもと、武蔵野の地域をアートで盛り上げる活動を展開する「トロールの森」実行委員会を中心となり、2002年から始まった野外美術展です。都会のオアシス、都立善福寺公園を主会場として、様々な美術作品が、公園を行き交う人々を楽しませ、また悩ませ、考えさせ、日常生活のささやかなスパイスとして定着してきました。2013年も、春と秋に、地元の子供達やアーティストの作品が公園に彩りを添える予定です。

主会場となる善福寺公園について

善福寺池は、井之頭池、石神井池とともに武蔵野三大湧水池と称されていますが、交通の便の悪さ(といっても、JR・西荻窪駅や西武・上石神井駅から徒歩約20分)や風致地区の指定地域ということもあり、比較的落ち着いた雰囲気は今に残っています。行楽客で賑わう井之頭公園とは違い、善福寺公園は近隣の方々の憩いの場としての機能が強く、定期的な来園が多いのも特徴です。そこに美術作品を持ち込むことによって、日常のリズムにささやかな揺さぶりをかけることが委員会としての一つのねらいです。(試しに井之頭公園と善福寺公園で同一の作品に対する反応の違いを想像してみてください。)

都市型公園で開催する意義

「トロールの森」は、どうしても一発勝負の鑑賞になりがちな少数の人を対象とした美術館やギャラリーとはやや趣きが異なり、不特定多数の人々が、まち(都市)と森(自然)を行き来する中で、一定期間(約3週間)に作品に繰り返し触れ合うことにより作品の裏にある意味や、そこから普段の生活の中で今まで気付かなかった存在や価値観を見出すことを可能にする野外展示です。

そのような下地もあるなかで、テーマとして「まちと森をつなぐかたち」をあげたいと思います。野外展示のイメージとなると豊かな自然の中で行われる越後妻有や瀬戸内の島々で行われるものなど、ある意味、極地的な展開の中で、その環境を意識したものになりやすいものです。それを逆手にとって、この都市型公園として成熟している善福寺公園ならではの表現が可能ではないかと委員会では考えました。他の野外展示会場では考えにくい、まちと森とが密接に結びついているこの場(善福寺公園)を巧みに示唆するような新鮮な視点の作品を広く提示していければと考えます。